緑ヶ丘中だより

２０２６年　９月２５日(金)
ＮＯ．５
〔　校長室より　〕

～ 緑ヶ丘中学校の全国学力・学習状況調査結果 ～

本年４月２３日（木）に３年生を対象に実施された「令和８年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。この調査は、生徒の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。本校では、実施後速やかに採点し、１学期の指導に活かしてきました。

この度、文部科学省から調査結果が送付されましたので、再度全教員で結果を分析しました。今後、成果や課題を学校・家庭・地域で共有し、取組をさらに充実していきます。このたよりでは、実施した教科（国語・数学・英語）の結果からみえる本校の強みや課題、改善方法などをお伝えします。

◎ 生徒の学力について（教科に関する調査結果から）

【国語】

緑ヶ丘中学校３年生の「国語」の平均正答率は、「全国と比べてやや下回っている」という結果でした。

国語では、無回答率が県平均・全国平均より低いものが多くみられ、解答しようとする意欲が読み取れました。

「気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く問題」や、「文章全体を3つに分けて整理したものとして適切なものを選択する問題」については、全国の正答率を上回りました。

「話し合いを受けてどのような意見を述べるか自分の考えを書く問題」や「表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、良い点や改善点を見いだすことができるかどうかを見る問題」では、正答率が県平均より低く、話し合いや、助言を踏まえて、自分の考えを整えるということに苦手意識があると思われます。

2学期以降、相手の意見を受けて、自分の意見を伝わりやすく表現する力を育むためにも、授業において、グループ活動やペアワークなどの言語活動を多く取り入れていく取組をすすめていきます。また、条件作文、課題作文にも取り組んでいきます。

【数学】

緑ヶ丘中学校３年生の「数学」の平均正答率は、「全国と比べてやや下回っている」という結果でした。

「同類項の意味を理解しているかどうかを問う問題」「反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる問題」「箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうか見る問題」では、全国の正答率を上回りました。

特に正答率が低かったのは、「起こり得る場合を図や表を利用して整理し確率を求めることができるかどうかをみる問題」「累計度数の意味を理解しているかどうかをみる問題」でした。

2学期以降「累積度数」の理解を再確認するとともに、度数分布表の分析方法についても復習を行います。また、今後も、全員が参加できる授業を心がけるとともに、一方で、レポート課題など発展的な問題を含む課題にも取り組んでいきます。

【英語】

緑ヶ丘中学校３年生の「英語」の IRT スコアは、「全国と比べて下回っている」という結果でした。

英語4技能である「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」のうち、平均正答率が国や県より低い技能は、「読むこと」「書くこと」の技能であり、「聞くこと」「話すこと」の技能においては、国や県と大きな差はないという結果でした。

特に、「読むこと」では、イラストや図、グラフの内容を読み取る問題が多く出題されていました。知識を問う単純な問いではなく、資料や情報を読み取る力も問われる問題で、回答率が低かったです。資料の読解問題に、今後もたくさん取り組ませていきます。また必要な情報を読み取るために、どこに着目するのか、読み取り方を訓練していきます。

さらに、「書くこと」では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかを問う問題の正答率が低かったです。授業の中で、質問に答えるだけでなく、理由も含めて考えたり、書いたりする活動を積極的に取り入れていきます。

今後も、本校では、細かな分析・検討を行い、課題を明らかにしながら、授業研究等をはじめとして日々の学習活動を通じて学力向上につとめていきます。

◎ 生徒の生活や学習状況について（生徒質問紙の結果から）

生徒質問紙は、生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活のさまざまな側面や豊かな心の育成に関わること、学習環境や授業等の教育活動などへの問いがあります。以下に、本校の結果と特徴をまとめました。

【豊かな人間性（人権教育・キャリア教育）に関すること】

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、全国の結果と比べて下回っていますが、学校生活の中で、また学校行事の場などで、最高学年として手本となる姿を見せてくれています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目は全国を上回りました。

質　問　項　目	本校	比較（1%以上）	全国
自分には、よいところがあると思う	79.0	＜	84.0
人が困っているときは、進んで助けている	89.4	＜	90.8
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	94.7	＜	95.1
人の役に立つ人間になりたいと思う	98.7	＞	95.9

数値は、各質問に「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合（%）

【家庭生活（生活習慣）に関すること】

基本的な生活リズムは全国の結果と比べて、低くありませんが、朝食を食べていない生徒は多いです。

質　問　項　目	本校	比較（1%以上）	全国
朝食を毎日食べている	86.2	＜	90.9
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	87.5	＞	80.5
毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.1	＜	92.4

数値は、各質問に「している」「どちらかといえばしている」と回答した割合（%）

【学習習慣（家庭学習や自主学習）に関すること】

課題となっている家庭学習の時間は、全国と比べると少ないです。また、スマートフォンや携帯電話、ゲーム等、SNS や動画視聴を３時間以上していると答えた人は全国に比べて大変高く、家庭での学習時間に影響を与えています。

質　問　項　目	本校	比較（1%以上）	全国
学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1 日当たり 1 時間以上、勉強している	60.4	＜	61.6
普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム等、SNS や動画視聴を３時間以上している	54.6	＞	49.6

☆ご家庭へのお願い

・ 携帯電話やスマートフォン等の通信端末の利用については、家族でルールをつくり、長時間の利用を避けるなど、具体的に取り組んでください。

・ 学力の向上には、学習意欲の向上と学習の習慣化が必要です。また、学習の習慣化には「家庭での学習時間」が大きく影響します。ご家庭でのご支援・ご協力をお願いします。